

時事新報

信俗西洋語を稽古すべし
全國の基督教徒之本月の始

日本全國の基督教徒と本月の始めを以て同盟會を東京に開き教法弘布の件に就き夫れく相談の有りある末第五號の議案に於て全國基督教徒の記名を以て公賣淫廢禁の議を日本政府に述べるの可決を爲し全國の同信徒有りゆるもの、記名調印を取聚えやがて之を政府に差出その運びに決し先づ其會を散宏たる由あり我輩は耶穌教の信者にも非ず又去逆佛教にも僕せすと雖も只局外に之を眺めて西洋宗教家が弘教に巧みに迄て豫と又其事に熱心なるに感服するより蓋し教門の事は俗事に無縁あるふ似たれ共無縁即ち有縁にして俗事と離れては教門立たず西洋の宣教師は常に此奧義を心に掛けて布教を勉むるが故に日本に漸入以來未だ何程の歳月も経され其信徒逓々増加して殊に本年に至りては大膽より全國信徒の記名を用ひ公賣淫の禁止を建議して大に社會の改良に率先せんと欲す、世縁と脱しあがふ又能く世事を忘れる宗敎家の心得は現に斯くふを有り度きもばなし

夫れは別事として日本現在の佛教僧侶はその數十萬以上あるして宗派もそ様々あれども中に就て見る時は名僧智謙妙きにもほらざる可きに堵この僧侶が現世に對し如何ある功德を施して又如何ある濟衆の妙法ありやと云ふに寂然として吾等へ聞ぬぞ或は強てその内部より入りたならば時として紛擾淫穢の沙汰聞くに忍びざるは醜を發見する事はほんかなき其教法と弘め若くは衆生を濟ふの道に至つては悟として之を願みず悟も以醜を發見する事はほんかなき其教法と弘め若くは衆生を濟ふの道に至つては悟として之を願みず悟も身を佛門に托して而かも其所托を忘れたるに異あらず甚ざ奇怪と申すべきあり往古佛教の日本に入りし當時より千有餘年のその間教法の汚濁一にして足らずと雖も皆済衆を以て本義と爲し社會公衆の利便のたために橋梁や架け農業を勧め雖然たる世利民福を進めて坐るるも土木興り僧門の助けあらざるも勤業振ひ教俗相分れて復た用經きの姿も移りたるより僧侶は悉く其手を引き今は將だ濟衆の工風に堪えて茫然たる可きや我輩より多濟衆の工風物を浮み來りて之を明治に今代に實事宗門の秘訣にして若し古の開山中興の祖師をして今日も再生せしりば果して手を拱て茫然たる可きや我輩の毒の次第なれ共然もとも今の文明の世の中より橋梁農業より外に濟衆の道無じと思ふに大ある誤りにして智慧無きの至りと謂ふべし不文に成ては不文も行ひ、文明に成ては文明に行ひ、世と教と與共に推移する如何なるべきや思ひ當らざる次第あらん先づ内地に入込みては百語も通せず様子も判らず不知即ち不和の根元もして些少の往還ひふても雙方主角を立て意外の葛藤を生ずべきは人情の世界に起り勝ちある事相にして免に角に數千年來國を築いたる日本人が突然開拓する仕事かれば容易あらざる大事と爲すべく之を是れ利用して高麗に佛教僧侶を遣事より近寄り雙方の不和となざして事の端よりと國境にせば彼と利害と與に弘教の方針を爲るべると明白あらんなれ其先立つものは言語あるに今の日本の言呂中興として、百字の書旨を通じて

官
威

日本内地不文なる人民の爲めに其求めに應すべし用意
は有りや甚だ疑はざるを得ざるあり獨ア是れのみあら
す今日に於ては各宗互に學校を設け生徒の人員全國と
通玄て三萬近くも有り其學校の數ふれに追して移しさ
事ならんと雖も此中に西洋の語學を教授して生徒の爲
めに現時將來の利を計る者とては殆んど皆無の有様あ
り實に不覺悟の至りにして若し開國難居の後の日本に
處し、其教法を維持せんとの念慮もあらず人民の上に
立づ僧侶の身として亦耻づべき次第に非ずや優存劣亡
は世界の大法にして社會に用ゐる者ゝ生存し社會に用
無ひものは亡滅するの理、事實に於て争ひ難し内外交
際の世の中ふ必要ある外國の言語をも知らず單ふ祖師
遺傳の舊株を守りて其教法を維持せんと欲する隨意
なれ共社會無用の冗物としては其生存の六ヶ敷き事今
に及んを頗悟なかる可らず今日の勢ひ西洋の宗教は時
用に投玄世利を進めて其働きの目覺しきゝ日本の僧侶
は獨り閑眠して死物の如し我輩宗教も無縁な共何を
申そも十萬以上の僧侶を有する日本の佛法にして聊々
にても經世の徳を施さんとあらぞ取り敢へず其社會の
後進生をして西洋語を稽古せしめ一つふは僧侶の身躬
から文明を知るの助けと爲し二つには之を以て内外交
渉の此姿姿不於て人情緩和の方便に供せんこと我輩が
今の佛門に向て注文をる所のものあり。

そ三十海里を航海せし時偶々暗礁に乗り上ひければ船
長マーヤア及事務長金鶴羽の両氏大に心配して午後四
時頃漸く馬山浦に引き還へせるも船體大に破損したる
故に長崎の造船所に持ち往て修復して同月二十五日漸
く仁川に歸着せり（編者曰此通信に馬山浦であるは釜
山より西方に當り數十里なる昌原府の馬山浦を云ふも
らん別に南陽府の南陽港も亦馬山浦と稱それとも此處
にはあらざるべし）

京城六營は總使は兎角互に相和せず後營使鄭洛鎔別營
使金鑑錫の兩氏は五月五日同時に辭表を出せしに付き
物議頗る洩々たり

近日支那公使館にては支那は強盜を捕へて死刑に處す
るよと都合六人ありしが其中二人は南大門外に二日間
梶首せり朝鮮が支那の屬國と定まる以上は支那政府が
斯かる所業を爲すも至當あらんと各國の公使領事共に
京城よりて朝鮮を獨立國と玄て交際する今日傍若無
人の至りありとて非難するもの多し

京城より開店せる日本支那兩國の商人は龍山浦に移り京
城と以て開市場とあさる由て昨年來の評判ありしに
拘はらず日本商人は續々京城に入り來り既と五十戸
百六十人の多きに至りたれば朝鮮商人は大ふ之を忌み
時々密會を爲して兎角穩かあらざる様子なり（畢）

○上海通信 五月十日 懶

そ三十海里を航海せし時偶々暗礁に乗り上ひければ船長マーヤ及事務長金鶴羽の両氏大に心配して午時頃漸く馬山浦に引き還へせ玄る船體大に破損したる故に長崎の造船所に持ち往け修復して同月二十五日漸く仁川に歸着せり（編者曰此通信は馬山浦であるは釜山より西方に當り數十里なる昌原府の馬山浦を云ふからん別に南陽府の南陽港も亦馬山浦と稱それとも此處にはあらざるべし）

京城六營は韓使は兎角互に相和せず後營使鄭洛鎔別營使金錫錫の兩氏は五月五日同時に辭表を出せしに付き物語頗る洩々たり

近日支那公使館にては支那は強盜を捕へて死刑に處するよと都合六人ありしが其中二人は市外に二日間梶首せり朝鮮が支那の屬國と定まる以上は支那政府が斯かる所業を爲すも至當あらんが各國の公使領事共に京城よりて朝鮮を獨立國と玄て交際する今日傍若無人の至りありとて非難するもの多し

京城より店せる日本支那兩國の商人は龍山浦に移り京城と以て開市場とあさる由之昨年來の評判ありしに拘はらず日本商人は續々京城に入り來り既に五十戸百六十人の多きに至りたきば朝鮮商人は大ふ之を忌み時々密會を爲して兎角穩かあらざる様子なり（畢）

○上海通信 五月十日發

釐稅 清廷にては髮賊以來國用足らざるを以て貨物價格百分の一を抽き商稅とせり其意、農は地賦稅おれば復徴稅を加へて困しむ可らず唯商は射利の徒なれば其貨物ふ課稅するは至當のとありといふに在り然るに釐稅は百分の一を取るべきに漸く變革して百分の三四より或は百分の十以上にも至り且此收稅官吏等貪慾飽るく商賈を脅迫し妄に重稅を課す或は民船を拘留し物貨と取押へ必らず已れの怨を滿たて後止む故に其官に納る所甚だ僅少にして過半は其私橐に入るものなり依て去年十月より江雨棠氏釐稅を總轄し獎害を洞悉し貳罰と嚴に玄章程を一にせしめが爲め官民漸く之に畏服し積習稍や減するべど得去年終に至りて定額外甘餘萬串（一串は錢千文一弔と錢千四五十文に當る）を収納せりと僅々三月間に此巨額を定額外と得たるを見れば平日官吏の貪求盜取は顯然火を見る如し故に清國の財政は誠に其人を得て計畫せば鐵道を敷設玄鑛山を開墾し戎備を擴張し海軍を増加するとも國力之に堪へて猶餘裕あるべし但官吏其職を力めず私橐を肥すを以て事とす故に百事總て振はず

兩廣總督 張之洞氏は廣東巡撫吳大徵氏と廣東海口各砲臺と巡視し虎門砲臺を檢閱する後復海珠砲臺に赴いたり

臺灣 近日副欽差林詩甫氏同轄内の噶瑪蘭内山を開墾し既に七百餘甲と至れり（一甲は一石は種子を殖するを得る地にて收租は四十餘石ありとす）氏ハ猶淡水より前往して丈量すと云々臺灣陸上電線は清曆四月中を以て竣工の見込み又淡水より福建省城迄は海底電線を設くと云ふ

哥老會の反徒 安徽省南陵縣哥老會の餘黨にて練號王老虎なる者あり地方官に捕縛を免れ脫走して寧廣山中に竄入せり山中に客民なり最も猖獗を極め其開墾せし田地に付き納稅するを肯んせず常々官府に抗志士民之と恐るゝ虎の如し体て王老虎は客民の董事と勾結し抗糧と以て名とあし地方官と媒を作すと云ふ

春期競馬 上海にて五月三日より五日迄常例の如く春季競馬を施行せり往年競馬の日ハ毎に雨天勝ちあり之に今年は幸ひ雨あきも風強くして沙を飛ばし石を走らし多少見物人の迷惑をあせり

生今設都合二俄，改名大
此段專知諸君一告。 麗三事 阿 部 芳

來ル二十四日午前六時四十五分新橋發歐米ニ向ヒ出發
ス御假乞トレテ參趨致スヘキ處一々其議ヲ得サル方々
モ有之ニ付此段茲ニ告謝ス

錠床機械錠床機械起重機械蒸氣機械蒸氣鍋爐管試驗器
縱削機械鑄鐵機械齒車切機械鑄鐵剪機械鑄板空明機械
萬力加簡鉻鑄鐵爐火爐等其般人札ナ以候條望ノ者ハ六月十日迄ニ現品熟
覽ノ上人札スベシ但可日開見ル上代賈不相當ト認ムル